

SDGsへの挑戦 – それぞれのきっかけからメリットまで！ –

事業者 伸光写真サービス株式会社			
所在地	神奈川県横浜市	業種	電子回路製造業
設立	1977年	環境経営継続期間	16年
従業員数	25名	SDGs取組開始年	2017年



- 環境や地域社会を意識した活動が社会的な評価を受けることにより、企業価値を高められた
- 取組内容を絞れば、業務管理が煩雑になることはない

1. SDGsを意識した取組の現状と経緯

■ 取組の現状

- ・ エコアクション21 (EA21) に基づいた環境経営を継続。省エネによるCO2削減や、廃棄物の適正処理、不良品削減による材料の無駄の削減などに取組んでいる。
- ・ 残業時間の削減や女性の雇用促進を進め、近隣（鶴見川）の清掃活動も行っている。

■ 取組を始めた経緯

- ・ EA21におけるCO2削減への取組が、SDGsの取組に結びつくと考えた。
- ・ 近年、大震災や豪雨災害などが頻発し、身近な川である鶴見川の氾濫などの災害の懸念も、きっかけになった。

2. SDGsを意識した取組の意義・効果・変化

■ 取組の意義

- ・ SDGsの取組を通して、環境問題に寄与できる。
- ・ 小さな事柄の積み重ねで、子供たちの将来を明るくできる。

■ 取組の効果、変化

- ・ 「省エネの達人 企業編」というテレビ番組で、省エネの取組と実績が高く評価されたことがあった。省エネに積極的な企業としての知名度が向上し、新規取引につながった。
- ・ 地域や社会を意識した事業活動により、横浜市から「横浜型地域貢献企業」の認定を受けたことが評価され、金融機関から金利優遇や追加的な融資を受けることができた。

3. 取組の進め方

- ・ 既存業務を整理して、SDGsの目標と対応させた。
- ・ 社内アンケートをとり、SDGsの認知度を把握した。
- ・ 従業員にSDGsに関するYouTube動画を視聴をしてもらい、身近なテーマであることを知ってもらった。
- ・ 取組内容を絞り込めば、生産管理や品質管理などの管理面が煩雑になることはなかった。



自社の活動とSDGs